ドニゼッティ作曲　歌劇「ドン・パスクワーレ」

191009

幕	場	場面	内容	分		見どころ・聴きどころ				
	序曲			7						
第1幕 45分	1	結婚を望むパスクワーレ	70歳まで独身だった財産家のドン・パスクワーレは、主治医のマラテスタに、甥のエルネストを良家の娘と結婚させたうえで、彼に全財産を継がせる経過を話そうとしている。 が、当のエルネストは、若い未亡人のノリーナに夢中で、伯父の進める縁談には見向きもしない。 業を煮やしたパスクワーレは「自分が結婚をして直系の跡取りを作る。」と、 主治医に花嫁探しを依頼した。 マラテスタは、エルネストの親友でもあり、親友の恋を後押ししようとする。	38	20	パスクワーレ	マラテスタ	エルネスト		
	2		ノリーナの家では、彼女が中世の騎士の恋物語を読んでいる。途中でその本を放り出した彼女は「私の方がよほど恋の手管に長けているわ。私は冗談も大好き。怒りを笑いに変える才能もあるわ」と自信たっぷりに語る。マラテスタがやって来て、今回の計画を彼女に説明し、OKする。		18		マラテスタ		ノリーナ	
第2幕 35分	1	豹変するノリーナ	今回の出来事が、マラテスタが自分のために立てた作戦であることなど露知らぬエルネストが、我が身に突然降りかかった不幸を嘆いている。	35	10	パスクワーレ		エルネスト		
	2		パスクワーレのところに、マラテスタが、妹のソフローニア（扮装したノリーナ）を連れて現れる。 ソフローニアの清楚で慎み深い様子に、パスクワーレは舞い上がり「すぐに結婚する」と言う。そこで偽の公証人（マラテスタのいとこ）によって結婚の手続きが行われる。そこにエルネストが、伯父に別れを告げにやってきて、伯父と結婚しようとしているのが、愛するノリーナであることに驚く。 すかさずマラテスタが彼に「これは芝居だ」と耳打ちして、エルネストはすぐに状況を飲み込む。 パスクワーレが婚姻のサインをした途端、ソフローニアは豹変してあれやこれやと注文を付け始める。思わぬ事の成り行きにパスクワーレは唖然とするばかり。その様子に3人は大喜びする。		25		マラテスタ	エルネスト	ノリーナ	
第3幕 45分	1	後悔するパスクワーレ	部屋中のどこもかしこも新妻の洋服や帽子、アクセサリー、靴などが散乱している。請求書の山を前に、パスクワーレは頭を抱えている。結婚式当日の夜から劇場見物に行くという妻をパスクワーレは諌めるが、「爺さんはさっさとお休みになったらいかが？」と言われる。 出掛けるソフローニアが落とした手紙を拾って読めば、「今夜9時から10時の間に庭でお待ちしております。あなたを愛する者より」とある。パスクワーレはこの結婚をすでに後悔しはじめる。	45	17	パスクワーレ			ノリーナ	
	2		マラテスタに「こんなことならノリーナとエルネストを結婚させておけばよかった」と愚痴る。 マラテスタは「私たちでその密会現場を押さえて、妹をこの家から追い出しましょう」と提案する。		12		マラテスタ	エルネスト		
	3	祝福するパスクワーレ	庭ではエルネストが、セレナードを歌っている。そこにソフローニア（=ノリーナ）が現れ、二人は愛を語り合う。パスクワーレとマラテスタが近づいてくる気配に、エルネストは慌てて身を隠す。 パスクワーレがどんなに怒り狂っても、ソフローニアは「なんのお話かしら？」ととぼけるばかりで埒があかない。そこでマラテスタが、妹の説得に乗り出すふりで「明日、エルネストの花嫁としてノリーナがやってくることになった」と言うので、彼女は「他の女と同居するなんてまっぴらだわ」と家から出て行くことを了承する。ここでもう一押しと、マラテスタは、パスクワーレに向かって「妹を家から追い出すためには、今すぐエルネストとノリーナを結婚させたほうがいい」と助言する。 パスクワーレはそれを了承するので、マラテスタがパスクワーレに種明かしをする。 「ノリーナはここにいます。彼女がノリーナです」とソフローニアのことを改めて紹介する。 パスクワーレは、寛大な心で彼らを赦して、若い二人の結婚を祝福する。		16	パスクワーレ	マラテスタ	エルネスト	ノリーナ	

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。